

## 【現状と課題】

林業の採算性を向上させ森林を健全に育成してゆくためには、初期段階における造林コストの縮減が重要であり、近年これらへの対策としてコンテナ苗が注目されている。その利用に当たっては、メリットを十分に発揮させる作業方法等の実証や普及が必要。



コンテナ苗

## 【これまでの取り組みと成果】

### 【平成26年度～】

#### 【取り組み内容等】

##### ○地域の造林事業の現状等を把握

管内の種苗生産者等を訪問のうえ、民有林等における造林の現状や課題等を把握。

##### ○コンテナ苗の活用状況の把握と分析等

コンテナ苗の植栽に係る現地検討会の実施及びオホーツク管内や十勝管内の先進的な種苗生産施設等を訪問し、コンテナ苗の生産や植栽等に係る課題等を把握。

#### 【取り組みの成果】

##### ○植付用改良器具の製作と植栽工程の改善

既存のコンテナ苗用植栽器具の大部分が外国製であり、作業条件毎の汎用性が低いこと、また、既存の植付器具が高価で作業強度に影響を与える重量も大きいことから、地域の作業条件にあった汎用性ある改良器具の製作や植付工程改善のための作業方法等について、当署のフィールドにおいて試植のうえ検証。

##### ☞汎用性ある植付用改良器具の製作と地域への普及

器具名	植付本数(本)		重量(g)	価格(円)
	1時間あたり	1日あたり		
改良器具(武田式二号)	122	745	2,200	10,000
ディンプル	101	600	3,800	30,000
スベード	94	568	3,000	15,000
鍬(従来の器具)	79	480	1,800	5,000
竹の子鍬	67	400	—	—
フレンチングチューブ	—	—	3,400	60,000



武田式二号

## 【平成28年度の取り組み内容と成果】

### ○ 民有林現場への植栽支援



民有林においては、平成30年度からコンテナ苗を活用した造林補助の制度化を検討していることから、私有林におけるコンテナ苗の植栽について、当署が改良した植付器具の紹介や既存の植付器具毎の特性解説及び技術指導、植栽工程調査などを支援。  
(3箇所 延べ1.25ha 約70名)

☞ 民有林関係者の理解が醸成

### ○ 関係機関等への情報提供



国有林で先行的に実施しているコンテナ苗について、その生産性の向上等に資することを目的とし、民有林造林会議等において、これまで国有林が取り組んできた伐採・造林に係る一貫作業等の検証結果や国有林が今後植栽予定のコンテナ苗の需要見込みなどについて情報提供。(3箇所、森林組合及び種苗関係者等延べ約150名)

☞ 情報提供により、コンテナ苗の安定生産化に道筋

### ○ コンテナ苗の生産工程把握



コンテナ苗の生産コスト縮減の必要性から、平成28年度にコンテナ苗生産施設の機械化を計画している種苗事業者の協力を得て、コンテナ苗の生産性分析等を実施し、生産工程においてボトルネックとなっている種苗の選別工程や移植工程における課題を把握し、種苗生産者と問題点等を共有。

☞ 種苗生産者と現状の課題を共有

## 【今後に向けて】

さらなる造林コストの縮減に資する様々な取り組みの実践と技術の普及による地域貢献